

この冊子は、代読ボランティア養成講座において、知的障害者の読書を支援するために必要な知識や技能を提供するためのテキストです。受講される方の学習に役立つことはもちろん、この講座や代読ボランティア活動を、多くの団体や個人の方に知っていただくことを願って制作しました。

読むことに難しさをもつ人が自ら読みたい本を読むための支援として、他者に読んでもらう「代読」という方法があります。これは、以前から図書館等で主に視覚障害者に利用されてきましたが、昔から子どもたちや高齢者等に行われてきたことでもあります。読みたい本を代わりに読んでもらうというとてもシンプルな方法は、求めに応じて読む人がいることで成り立ちます。

知的障害者は、何事も周りの人から与えられたり決めてもらったりすることが多くなりがちです。そのため、自分で読みたい本を選べない人、読みたい本があっても読めないのであきらめてしまう人がいます。しかし、知的障害者の多くは、読んでみたい本や雑誌、新聞等があり、だれかに読むことを手伝ってもらいたい気持ちをもっています。また、代読を経験することによって、読んでほしい思いを伝えたり本を選んだりする力をつけていく人がいます。

代読ボランティアとは、このような知的障害者の思いに応じて、読んでほしい本や雑誌、新聞等をわかりやすく読む人のことです。

知的障害があると、一般の本や雑誌、新聞等をそのまま読んでも十分に理解できないため、読み手にはわかりやすく読む技術が必要となります。知的障害の特性を理解して関わり方や読み方を知り、実際に当事者を相手にした実習が必要です。代読ボランティア養成講座では、このような代読するための基本を学習します。

すべての人が読書による恩恵を受けられるようにするための「読書バリアフリー法」(2019年)、情報の取得や利用、意思疎通を推進する「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」(2022年)が続けて公布・施行され、障害による差別のない読書や情報・コミュニケーション保障の実現が社会全体の課題となっています。そこで、知的障害者についてのこれらの課題を解決、改善していく責務のある公共図書館、学校図書館、障害者福祉施設、特別支援学校等に、具体的な方策が求められています。代読は、そのための有効な方法です。彼らが読書を楽しみ必要な情報を得るために、上記施設等が代読ボランティア活動に関心を寄せ、代読ボランティア養成講座を開催されることを願っています。

2023年1月吉日

知的障がいと自閉症児者のための読書活動を進める会 代表 藤澤 和子